

イギリス

アーチバルド・クラーク・カー 日本の新秩序建設を妨害する現地第三國人、と云へば第一にイギリス大使アーチバルド・クラーク・カーを擧げる。上海が駄目なら廣東、香港。廣東、香港が駄目ならピルマを通じて、と驚く程活潑な援蔣政策を實行してゐる。一九〇六年に外交官として出發、一九三八年支那事變の眞只中にヒューゲッセン大使の後繼として着任した。抗日にあがく蔣介石にとつて大使の存在は神の如く、重慶では款待これ努めてゐると傳へられる。

シエントン・トーマス 極東方面の基地としてマレーはイギリスにとつて重大である。殊に日本の佛印進駐、泰・佛印國境問題の調停によつてマレーへの重壓は倍加した、として總督シエントン・トーマスはマレーの防備、對日策動に躍起になつてゐる。一

八七九年生れ。ケンブリッヂ大學卒業後植民地總督をして一九三四年現職に就いた。

シリル・ニューオール 濠洲と共に、イギリスの南太平洋における領土ニュージージーランドの總督シリル・ニューオール空軍大將は昨年夏まで英本國で空軍司令兼參謀總長として、獨逸軍を向ふに勵してゐた。生え抜きの空軍將校で、現在英空軍の爆撃機と戦闘機の育ての親で、前大戰當時は英佛海峡を越えて度々ドイツ空襲に参加した爆撃の權威者である。今年五十四歳で生れは印度である。

ハリファックス 「陽の照るところイギリス國旗の翻らざるところなし」と言つたのは今は昔、今や將に落陽の如く沈みゆかんとするイギリスを支へて、内にチャーチル對獨抗戰に足掻き、外にハリファックス、アメリカに在つて英米提携、對日情儀に狂燥を續けてゐる。一八八一年生れ、貴族の出身で、一

九二四年文相に就任以來、印度總督、陸相、樞相を歴、一九三八年チエムバレン首相の下に外相の任に就いたが、破竹の勢を以て中歐制覇、英勢力驅逐を目指すドイツとの外交戦にはことごとく破れた。本年初頭故ロシア大使の後任として駐米大使に返咲いたが、所謂大物だけにハリファックス大使の動きには容易に油断ならぬものがある。

ヘンリー・ロバート・ムーア・ブルック・ボツバム イギリスは極東の事態に備へ昨年十一月シンガポールに極東軍總司令部を置き、司令長官にボツバム卿を起用した。就任後彼は記者團に「自分が日英間の平和を保證することは出来ない。若し侵略者が現れればマレーはこれに一撃を喰はせる」と豪語してゐる。シンガポール、マレー、ビルマ、香港は全部極東軍總司令部の管轄で、殊に最近シンガポールの英米共用問題が喧しく言はれる折柄、その司令長官たる彼の今後の言動は頗る注目すべきであらう。一八

七八年生れの六十三歳。前大戰にも參加。一九三六年まで英空軍總監の職にあつた。

リンリスガウ 英本國の大勢挽回に大童になつてゐるもう一人は印度總督リンリスガウである。豊富な資源地だけに、印度は英國にとつてはなくてはならぬ存在である。然し今やその印度には澎湃たる獨立運動が起つてゐる。リンリスガウ總督は本年五十三歳、一九三六年現職に就任。印度通ではあるが白人萬能主義で、印度人には極端な壓政撞着政策を以て臨んでゐるので頗る人氣が悪い。

ジョフレイ・ノースコート イギリスの極東前衛基地香港の總督はジョフレイ・ノースコート卿、一九三六年就任以來對日基地として香港の防備に懸命である。本年六十歳、大學卒業後は殆ど植民地廻りをしてゐる。

ロバート・クレイギー　ロバート・クレイギーが大使として日本に着任したのは支那事變勃發直後の昭和十二年夏、それから今日まで日本とイギリスとの間には實に數へ切れぬ程のさまざまな事件が起こつた。先づヒュージェン駐支大使負傷事件、レディ・バード號事件、支那海關問題、英權益問題、天津租界問題、歐洲戰爭が起つてからは更に多くの事件が起つた。これ等を曲りなりにもさばいて來た大使の腕は、さすが永年外交界に育つた人物だけのことはある。然しその彼にも今の大勢は如何ともし難いであらう。弱冠二十三歳で外交官となり書記官としてスイス在勤中現夫人のアメリカ公使令嬢と知り合つて一九二八年結婚、一九二三年から三七年で本省詰、日本に彼の名が知られるやうになつたのはロンドン軍縮會議の頃からである。

カナダ

100
アスロン　アメリカと結んで、今や將に倒壊せんとする英本國の大勢挽回に躍起になつてゐるカナダの總督はアレクサンダー・オーガスタス・フレデリック・ウイリアム・アルフレッド・ジョージ・ケンブリッジ・アスロン卿と云ふ恐しく長い名の持主、エデンバラの領主で、ウインザー城總督、南阿總督を経て現職カナダ總督に就任した。
マッケンジー・キング　アメリカは對英政策として直接には對英援助、間接には米加共同防衛協定を結んだ。カナダはイギリスとアメリカを結ぶ紐帶であり、本國崩壞後のイギリスの根據地で、その首相マッケンジー・キングの任務は俄かに重くなつた。首相として既に十三年、今や將に倒れんとする本國の支へ棒の役を引受けようとしてゐる。一八七四年生れで、一九〇九年労働大臣、一九二一年自由黨首として首相に就任したが二五年辭職、三一年再度首相となつた。

メキシコ

カマチヨ　昨年末メキシコ大統領に就任したカマチヨ氏は本年まだ四十四歳の若さで、貧農の生れから現在に叩き上げた。十八歳で陸軍少尉として革命軍に投じ、一九三七年陸軍大臣に就任した。メキシコの豊富な石油を通じて親米政策をとつてゐる。メキシコは昨年までは親日的であつたが、カルデナス前大統領の末期昨年夏頃から急に反日的に變つた。カマチヨ新大統領が今後如何なる對日政策をとるか一應注目する必要がある。

濠洲

ウイリアム・ヒューズ　「太平洋に何が起らうとも濠洲は驚くものではない」と豪語する濠洲のウイリアム・ヒューズ海相は、七十七の高齡。パリ經濟會

太平洋を繞る人々

議、前大戦協和會議に列席したことあり、検事總長、産業大臣、外務大臣、副首相等を経て昨年現職に就任した。去る二月十六日の外電は「果して太平洋に戦火が擴大するや否やは全く歐洲情勢ならびにアメリカの態度如何にかかつてゐる」と興味ある彼の言葉を傳へてゐる。

ゴリー　波荒き太平洋に英國旗を護る濠洲總督ゴリー卿は六十八歳。スーダン、エチオプト前大戦に参加。一九〇八年濠洲に總督として赴任して現在に至つてゐるが、濠洲の實権は總督よりむしろ首相にあり、總督としての彼の存在は英本國との結付き役だけでさして重要ではない。

ジョン・グレイグ・レーサム　レーサム氏は昨年末初代駐日公使として任命された。日本には昭和九年經濟使節として來朝したことあり、検事總長、産

業大臣、副首相、外相を歴任、また國際聯盟、英帝國會議、軍縮會議等に代表として出席したことがある。濠洲が日本との公使交換に當つて、所謂大物のレーサム氏を送つたことは、濠洲が如何に日本との關係を重視してゐるかを示すものである。メルボルン日濠協會設立者として親日家である。

リチャード・ガーディナー・ケーシー 太平洋の風

雲急を告げる新聞紙上に最近時々名を見せるリチャード・ガーディナー・ケーシー駐米濠洲公使は、一八九一年濠洲に生れ、前大戰に参加した陸軍少佐で大蔵次官から蔵相を経て、一九三九年夏今次大戰勃發直前に開設された軍需省に初代軍需相としておさまり、昨年一月アメリカとの公使交換に初代駐米公使として赴任したもので、去る二月十六日にはハル國務長官、英大使、オランダ公使等と太平洋問題に就て何事か協議したらしく傳へられ、日本の南進に怯えて對日、米濠合作に頻りと蠢動を續けてゐる。

ロバート・G・メンジース 濠洲は英帝國の自治領であるが、こと太平洋に關する限りは濠洲独自の判斷によつて行動する、と云ふ意味のことをメンジース首相は、一昨年就任早々施政演説で言つてゐる。今次歐洲大戰では濠洲も對獨交戰國であるが、東半球においては比較的穩和な政策をとつてゐる。然し一旦太平洋に戰爭が起る時は勿論アメリカと協調すると云ふ方向に進んでゐる。メンジース首相は今四十六歳の若さ、鐵道大臣の經歷あり、故ライオンズ元首相の右腕で現在統一オーストラリア黨の黨首、一九三九年ライオンズ首相死亡の後を繼いで現職に就任した。

蘭領東印度

チャルダ・ファン・スタルケンボルグ 蘭領印度諸島が世界の關心を集めるやうになつたのは昨年の夏頃からで、これには二つの理由がある。一つは本國

て注目されやう。今年四十八歳。生粋の蘭印生れで法學博士の稱號を持つてゐる。本國の大學を卒業後は、殆ど蘭印政廳に勤め經濟長官の要職におり、親英米派ではないが、今ではチャルダ總督に次ぐ勢力を持つてゐる。

佛領印度支那

ジャン・ドクロー フランスの降服後ヴィシー政府によつて佛印總督に任ぜられたジャン・ドクロー提督は着任早々先づ對日問題、次で泰との國境事件では日本の調停を入れ、われわれとも縁が浅くなつた。日本に對しては萬事ヴィシー政府の方針通りに動いてゐる。一八八四年生れ、プリモーク艦長、ロンドン軍縮會議代表、地中海艦隊第三巡洋艦隊司令官等を歴任、一九三九年秋極東フランス軍司令官に就任現職のまま昨年七月、カトルー前總督の後を繼いで

のオランダが獨軍に占領された後、その領土蘭印がどうなるかと云ふこと、他の一つは、蘭印が東亞共榮圈の中に入つてゐるのでアメリカが急に蘭印問題を重要視し始めたからだ。と云ふのも蘭印はアメリカにとつては重要なゴムの生産地であるからだが、とにかく蘭印はイギリスとアメリカの資本でしづられてゐる。蘭印がとかく日本に橋つくのもこんなところに理由がある。その英米に驅らされてゐるのは總督チャルダ・ファン・スタルケンボルグだ。ベルギー大使をしてゐたが、一九三六年總督に就任し、昨年本國が獨軍に占領されてからは事實上蘭印の實權者になつてしまつた。貴族の出身で今年五十一歳。

ファン・モーク 日下わが芳澤代表と商議を進め

てゐる蘭印側代表ファン・モークは去る一月二十三日「蘭印は東亞共榮圈に入らぬ」と奇怪な聲明を發表した。日蘭會商がどう云ふ結果になるかは別として彼のこの言葉は蘭印の今後の方向を示すものとし

總督を命ぜられたものである。
 バオダイ(保大)安南王 わが日本の南方進出によつて俄かに注視を集めた佛印に今猶王冠を護る安南王朝、佛領になる以前は相當の権力もあつたが、今では全く力をそがれ、統治権はもとより兵馬の權(面白いことには安南では兵象の權と云ふ)もない。現在バオダイ王は名ばかりの王で、佛本國で教育を受け、すつかりフランス化して土民の反感を買つてゐると言はれる。

印度

アザット 一八八八年メツカに生れた。カイロの回教神學校に教育を受け歸印後カルカッタに定住、尖銳的指導者として回教聯盟に参加、國民運動に奔走、數回投獄された。一九二九年激情的な同盟罷り脱退、アンサリ博士、アラム博士等と「全印國民回教徒黨」を結成、大いに國民主義思想を鼓吹し、

國民運動の戦線統一に邁進して來た。一九四〇年二月ボースより國民會議議長のあとを受けて就任したが、今後の彼の力量は大いに注目される。

ヴェンカタ イギリス政府がスエズ運河の株券をエチプトから買収、東漸政策いよいよ盛んな一八七五年に生れる。マドラス・ロー・カレッジ卒業後獨立運動に身を投じ、一九一八年印度憲法改革案に反對して獨立を要求活躍を始めた。一九二〇年印度議會下院議員となり、二八年全印に獨立運動盛んな折柄國際聯盟印度代表として渡歐、歸國後三三年に至り上院議員となり、次いでマドラス政廳行政長官となつた。現在マドラスのナショナル・デモクラティック・パーティーの指導者である。

ガンジー 一八六九年生れ。ロンドンに留學卒業後辯護士となり多年南阿に住まつてゐたが、一九一五年印度に歸るや大戦中募兵運動を行つてゐたが、

イギリスの惡辣な政策を知り一九一八—一九一九年印度に民族解放運動起るや國民會議派の指導者として登場、無抵抗戦術を以つて反英運動に活躍、二二年捕はれて六ヶ年禁錮の刑を受けたが二四年二月に至り釋放され、同年國民會議議長となつた。三〇年鹽稅抗議をなし市民的非協力運動に入り投獄三一年釋放された。同年英印圓卓會議に印度代表として出席、歸るや直ちにデリー協定を時の總督アーウィン卿と締結した。三二年反英運動激化一月投獄、三三年五月釋放された。三四年より國民會議派の指導者としては表面上退いたが、同會議派の政策を裏面にあつて指導を續けてゐる。

おける「印度労働者擁護同盟」の創立者として活動する間も、印度労働問題に關しての著作を多數發表してゐる。イギリス議會における唯一の共產黨員として活躍中である。

サクルトヴァラ 一八七九年生れ。ボンベイの聖ザヴィエルス・カレッジに學び、卒業後一九〇五年渡英、一九一〇年獨立労働黨に入黨し活躍を續けてゐたが一九二一年同黨左翼派結成されるや率先して参加、同年イギリス共産黨に加盟した。イギリスに

サフルー 全印自由聯盟議長。一八七五年生れ。英帝國議會に、或ひは又英印圓卓會議に印度代表として數度渡英し、反英運動の爲に活躍してゐたが、自由黨が國民會議派から分裂して新たに結成さるるや一員として参加、一九二三年以來各地國民大會を開催し印度稅制改革案を發表してゐた。サイモン調査團に對してスワラヂ黨の指導者モチラル・ネール等と計り自治要求を議決、一九三〇—三二年を通じて英印圓卓會議に代表として出席した。政治、社會問題に關する意見を新聞紙上で屢々聞はしてゐる。

サクルトヴァラ 一八七九年生れ。ボンベイの聖ザヴィエルス・カレッジに學び、卒業後一九〇五年渡英、一九一〇年獨立労働黨に入黨し活躍を續けてゐたが一九二一年同黨左翼派結成されるや率先して参加、同年イギリス共産黨に加盟した。イギリスに

ネール 國民會議派の長老バンデット・モチラル、ネールの子として一八八九年に生れた生粋の革命兒

である。十六歳の時渡英ケンブリッジ大學に學び卒業後印度に歸つた。一九一六年ガンヂーと初めて會ひ、促されて國民會議派に入り反英運動に参加し、一九二一年以後數度投獄された。一八二八年ジュネーヴに開催された反帝國主義聯盟に出席、同年父子相伴つて國賓待遇でロシア革命十週年記念に臨み、歸印後その活躍ぶりから同會議派内青年急進派の首領と目されるに至つた。一九二九年全印労働組合會議議長、印度國民會議議長になる。一九三〇年鹽稅抗議のためガンヂー等と共に投獄され、後一九三五年迄に數度投獄されたが、遂に三六年—三八年國民會議議長となり、一九三九年二月その席をボースに譲つた。

ブラザッド　ダフアリン伯總督就任の一八八四年に生れ、カルカッタのブレヂデンシイ・カレッジを卒業後一九一四年大學教授となつたが、後國民會議派に身を投じ反英非協力運動に参加した。數年間

ハール州會議派委員長を勤めてゐたが、一九三四年ボンベイにおける十八次國民會議開催に當つて議長に選ばれた。現在は國民會議運用委員會の一員として活躍中である。

ボース　一八九七年に生れ、カルカッタ及びケムブリッジ兩大學に學んだ。一九二一年に至りガンヂー等の非協力運動に加盟反英運動を展開、一九二四年カルカッタ市會議長となつた。後捕はれて拘留中折柄の選舉でベンガル州會議員に當選、釋放後一九二八年以來印度獨立要求聯盟を指導し、又數年に亘つてベンガル州會議派委員會議長となつて活動中一九三九年二月に至り印度國民會議議長に押された

マラヴィヤ　國民會議派の闘士である。一九一〇年ヒンズー語雜誌『マリヤダ』を創刊又ヒンズー語で發表した著作が多い。非協力運動に参加して反英闘争を行ひ三度投獄されたが意屈せず、一九二三年

三〇年、三六年印度議會下院議員に當選、現在では印度國民會議派の中央及び地方委員を兼ねてゐる。

フィリップピン

アギナルド　一八八五年マニラに生れ、年長じて來朝、名古屋高工に學び卒業後歸國、實業家として獨立、織物工場其他各種事業を經營したが意に任せず失敗を續けてゐた。その後百貨店經營に成功し、次第にその地位を認められ財界の巨頭となり、商工會議所會頭にまで昇進した人物であり、大の親日家として知られてゐる。

オスメニア　一八七八年生れ、聖トマス大學卒業後一九〇六年セブ州知事に就任、一九〇七年第一期比島議會(舊議會)議員、その當時ケソン等と共にナシヨナリスト黨を結成し、一九二一年頃まで黨首として活躍してゐたが、次いで一九二二年—三三年

コンソリダド・ナシヨナリスト黨副總裁を勤め、後黨分裂に際してナシヨナリスト・デモクラタ・プロ・インデペンデンシア黨を組織黨首となつて運動を指導、一九〇九—二二年同下院議長、一九二二、二八、三四年同上院議員にそれぞれ選ばれて就任。その間も獨立問題に關する會議に選ばれ比島代表として數度渡米。一九三五年、コモンウェルス(比島聯邦)成立に際して副大統領に選ばれた。

ケソン　一八七八年に生れ、聖トマス大學に學んだ。一八九八年アメリカとの戦ひに將軍エミリオ・アギナルドの下で働き歩兵中尉から後になつて中部長官に昇進したが、アメリカに敗れてからは軍務を退き一九〇三年辯護士となり、次いで州検事長、知事を歴任、一九〇七年第一次比島議會に選ばれて議員となつた。一九〇八年萬國議員會議に出席のため歐洲に渡つたが、翌年比島辨務官に押されて渡米した。アメリカに行くや政治

的手腕を發揮し、「ジョージア」法の成立によつて完全な比島立法権を確立、更にアメリカ議會に働きかけて比島獨立の誓約を獲得するなど、フィリッピン獨立の爲に多大の功績を残して一九一六年に歸國した。その年から一九三五年までの間比島上院議長を勤めてゐたが、一九三五年九月歴史的なコモンウェルス（比島聯邦）の成立と同時に、榮ある初代大統領に選ばれた。

サントス 一八九〇年に生れた。州知事を経て現在一九三〇年來の典獄局長の職にある。一九三六年陸軍少將、參謀總長に補せられたが現在ではケソン大統領顧問であり又國防委員會書記長の要職にゐる。

フロラン 一九〇二年まで續いたフィリッピンの大叛亂が起つた翌一九〇〇年に生れた。生粋のヂャーナリストで「マニラ・ブレティン」紙の記者を振出しに現在は「フィリッピンズ・ヘラルド」「マブ

ハイ」「エル・デバテ」「マンデー・メール」各紙を経営してゐる。又現在日比協會、比支協會、比島極東問題協會の幹事を勤めており、日本、支那及び一般東亞問題に關する著書を多数出してゐる極東通として有名な人物である。

泰 國

アテイヤ・テイバアバ 一九〇四年生れで後年イギリスへ留學し、歸國後、一九三五年より新國王幼少のため攝政府を設置し、現在ではその主席であり陸軍大佐の要職におられる。前國王プラチャディボクの従兄弟にあたつてゐる。

オサタノンダ 一九〇三年に生れ、長じて華僑の重鎮として、その名を知られた故蕭佛成の女婿となつたが、その多感な熱情は民族主義者としての彼を全國に有名ならしめた。文部省秘書官當時、太平洋

佛教青年會大會開催に當つて、當時の國名シヤム國代表隨員として、わが國にも來朝した事がある。現在の世界危機に際して内閣情報部長の要職にその才腕を振つてゐる。

ピヤ・バホーン・バラバユハ・セナ 一八八六年に生れ、ドイツに留學したが、歸國後一九三二年に突如炸つた人民黨第一次革命に際し、軍部急進派を率ゐてクーデターを敢行革命政府を樹立し、多年諸帝國主義の壓迫に打ち挫がれて、その因循無能振りを暴露してゐた専制君主制を破棄して、遂に立憲君主制の確立を實現させた。然るに一九三三年四月所謂護憲革命（第二次革命）起るや、これに當つて舊王族と結託して事をなさんと謀つた政府部内の保守派を鎮壓、事なきを得たが、これと同時に第一次バホーン内閣を組織、内政外交一意よく萬般の改革に當つてゐたが、一九三四年國王對議會の紛糾に際し、一旦責任辭職に及んだが、直ちに第二次内閣を組織

して國王退位後の複雑なる國內情勢をよく處理した。後一九三八年首相の要職を辭して現在は國防省の顧問となつてゐる。陸軍大佐で、一般人民は英雄的存在としてその徳望の篤いこと非常なものがある。

ルアン・カア・ソングラム 一九三三年の反革命運動鎮壓に前述のピヤ・バホーン・バラバユハ・セナの指揮下で功勞をたて、空軍參謀長になつた人物であるが、現在は無任所大臣兼大藏省稅關局長官に補せられてゐる。現下の情勢において空軍部内の代表者としての彼の役割は大きい。

ルアン・ピブーン・ソングラム フィリッピンがスペインに對して獨立要求を行つた一八九七年の生れで、長じてドイツに留學した。歸國後人民黨の第一次革命及び第二次革命に際して功をたてたが、後年になつて一八三八年前首相ピヤ・バホーン・バラバユハ・セナの後を受けて首相に就任した。現在内

相、国防相、外相、國軍總監を兼任、陸軍少將、海軍少將、空軍副元帥の肩書を有し、全國の輿望を一身に世界情勢に處してよく國運を誤まらず、東亞共榮圈の一翼を擔つて一意よく萬難を打破し、泰國獨裁者の感がある。

ルアン・ブラディット・マヌターム 一八九九年生れ。フランスのソルボンヌ大學に學び卒業後法學博士となつた。革命前、法制局参事官兼國立チュラロンコーン大學の法學部教授となつてゐたが、一九三二年第一次革命當時人民黨首領として活躍し革命政府成立後「シヤム暫定憲法條令」を起草して政治、經濟工作其他新政府の綱領を規定して多大の功績を残したが、一九三三年反動派のために國外に追放さ

れ、一時フランスの地を踏んで空しく亡命生活を送つてゐた。その後第二次革命成功するや急遽歸國して内相に就任、更に外相を歴任した後現在では大藏大臣であるが、外交、財政には非常な手腕の持主で全國の青年インテリゲンチヤ崇拜の的である。

ワンワイ・タイヤコーン・ワラワン 一八九〇年に生れ、英國に留學した。歸國後その手腕を認められて外務省顧問に補せられた舊皇族中の勢力家で、嘗てわが國に來朝したサコン・ワナコーン・ワラワン殿下の弟であり、今回の泰、佛印紛争解決のため全權代表として來朝、その重責を全うし、一躍わが國朝野にも有名になつた。

昭和十六年五月十五日印刷
昭和十六年五月二十日發行

太平洋讀本
定價一圓五十錢

著者 日本青年外交協會研究部

發行者 東京市豊町區六番町三番地四 大島辰雄

印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 若林吉郎兵衛



發行所 東京市麴町區六番町三ノ四 日本青年外交協會出版部

電話九段(33)二九八三番
振替東京八三五七三番

文部省推薦

若きドイツは鍛へる

ヘルムート・シュテルレヒト著

日本青年外交協會研究部譯

今次歐洲戰に於てドイツは決定的な勝利を得た。何がかかる勝利へ導いていつたのであらうか？ それは決して謂ふ所の謎の新兵器ではない。それは實に若く且つ固く結ばれた強烈なる精神の武器に基くものであつた。前大戰以來忍苦に満ちた生活裡に見出したドイツの旋は新しい理念の爲に戰を決意する瞬間の偉大さであつた。打ち克ち難い悲劇といふものはない。あるものはただ可能性を求めて勝利へ突進む心意の力である。高度強力國防國家建設を希む者は若き再建國ドイツを知らねばならぬ。

四六判上製二五〇頁 定價 一圓五十錢 千十五錢

ロバート・A・ブレイディー著 日本青年外交協會研究部譯

ナチス・新國家の組織

本書こそはまさにドイツ及びファシズム研究の決定版である。模倣と追従に飾られたファシズム理論の書は市場に溢れてゐる。だが、此の書の如く科學性を興趣ある行文の中に藏しつつ、良心的な立場をもつて鋭く深くドイツ・ファシズムを掘り下げたものが嘗てあつたらうか？ ナチ權力の發現される諸機關、勞働・食料・文化・輸出入・通貨等を規制する諸官局の活動を最も具體的に、餘す所なく説き明かして居り、ファシズムと社會革命、ナチスと民衆、生産手段、資本主義とナチ黨——これらの根本的な諸問題は本書において始めてその全貌を露呈した。

菊判上製四二三頁 定價 二圓五十錢 千十五錢

太平洋地政治學

カルル・ハウスホーファー著

日本青年外交協會研究部譯

地圖圖表附

世界史の轉換期に於て、今や太平洋世界の凡ゆる課題が歴史の前面に登場して來た。新しき太平洋を制する者こそ、新しき世界史を書く者でなければならぬ。歴史の自然的基礎たる地理學が、今日ほど密接に政治と結びついてその現實面を露呈してゐる時はない。然もこの現實面が東亞後進諸民族とその指導者たる日本の歴史の契機となりつつある時、太平洋新秩序形成の理論と方式にとつて本書の示唆するところ渺なからざるものがあらう。協會研究部一ヶ年半に亘る單一翻譯と綜合調査の獨自出版形式により遂に其苦心が結實した。

上卷・菊判三二〇頁 定價 二圓八十錢 下卷・菊判二四〇頁 定價 二圓七十錢

オットー・プアライデー著 日本青年外交協會研究部譯

世界經濟と磅・圓及び弗

本書は、ハイデルベルク大學の「社會科學及國家學研究所」が、ヨーロッパの「經濟的運命」を検討せる勞作を最初に發表したものである。ここに「ヨーロッパ的問題性」の視角から取上げられてゐる世界經濟恐慌下の世界的通貨一磅、圓及び弗の問題は、蓋し今日における世界經濟の諸問題をば最も鋭く剔抉せるものと云へよう。副題にいふ「イギリス、日本及びアメリカにおける金融的政策—その國民經濟的及び世界經濟的意義」の解明は、直ちに國際政局の透視への強力なる望遠鏡であり、且つ顯微鏡の役割を果すものであらう。

菊判上製二四三頁 附表四〇頁 定價 二圓五十錢 千十五錢

世界資源分割論

パーバラ・ワード著 原勝譯

現實の世界は、その資源があまりにも英米佛に壟斷されてきて、文明のより高次の発展の爲にも、人類のより高次の福祉の爲にも、活用されなかつた。資源の一切が文明の類廢と人類の不正の爲に悪用されてきた。パーバラ・ワードは明徹な論理と豊富な資料に基礎をおいて、科學的に多角形的に立論を構成してゐる。彼はこの提案を作成するに當つて、英佛の植民地經營や資源活用問題を鋭く批判し、非難してゐる。そして、日本の海外依存性と植民地、資源問題等を正確に理解してゐる。

B6判美裝 二五〇頁 定價 一圓五十錢 千十五錢

中國の諸問題と其解決

汪兆銘著 日本青年外交協會研究部譯

新しき支那の立役者として、新大陸の運命を双肩に擔つて起つた英雄として、革命兒として時論家として汪兆銘はもはや知られ過ぎる程知られてゐるが、正にその革命的熱情の源泉とも云ふべき冷徹にして飽くなき學究的精神を以て祖國支那の運命を追及し、過去にたいする峻嚴なる批判をとほして將來の一大抱負を吐露してゐる。學徒汪兆銘を知る者は少ない。今ここにその缺を補ふべく、本譯書を上梓し、親しく學究汪兆銘の氣概に接する機會を得た。所謂汪兆銘運動の動向を根本的に窺知せんとする者は、ここにこそその鍵を見出すであらう。

菊判上製 二六〇頁 定價 二圓二十錢 千十五錢

東亞解放論序說

原勝著

東亞は、十八世紀の末葉以來、歐米の侵犯と害惡の鐵鎖の下に、あまりにも隷屬的な、あまりにも無慘な状態に押しつけられてきた。この歐米の侵犯と害惡は、優れたる歐米文化の移入と云ふ祝福のやうな外觀を呈して「東洋文化」を尊重する勢力を東洋人自身の手によつて、破壊させてきた。だが、歴史の皮肉は、歐米が東亞にもちこんできた民族主義を東亞諸民族の武器たらしめて、東亞の獨立とルネッサンスを戦はしめてゐる。東亞は、今や、歐米の制度や、習慣を模倣するばかりに「東洋人」としての生活や道徳に、崇高な地位を發見することに覺醒めてきてゐる。

四六判上製 三五〇頁 定價 一圓八十錢 千十五錢

新大陸政策の基調

田知花信量著

現下の猫の目の如く變化する世界情勢に對應し、今後の新しき偉大なる國防國家日本を建設せんとする際、先づ其の解決をわれわれは日支問題におかねばならない。其は新東亞建設の第一段階である。本書において著者はジャーナリストとしての慧眼な視界に、日支問題の鍵を其の理論と實踐において鮮明に映し出してゐる。實際に支那に生活したジャーナリスト田知花氏の日に映じた日支問題解決の基調に、われわれは得るところが少くない。大方讀者の一讀すべき名著たるを疑はない。

四六判上製 一八〇頁 定價 一圓 千十五錢

近刊豫告

逸見 銳著

(五月中旬)

アメリカ評論

この世界改變の時代にあつてイギリスと共にデモクラシーの最後の牙城を守るものはアメリカである。斯る激しい變貌の時代にアメリカは果して世界にその覇を競ひ、牙城を確保し得るであらうか？ アメリカを口にする者は多い。然し彼等の知つてゐるアメリカは、ほんの表面だけでしかない。眞のアメリカは？
アメリカに生活し、よく彼地の事情に通ずる新銳評論家逸見銳は斯くアメリカを見る。われわれは本書に再度アメリカを衝く必要があるを信ずる。

B6判美裝 二〇〇頁 定價 一圓五十錢

今中 次 磨 著 (五月下旬)

東亞の政治的新段階

所謂東亞共榮圈なるものの確立をとほして眞に世界新秩序を確保せんとするとき、われわれは先づその最も基本的な第一段階たるべき日支合作の眞髓を把握しなくてはなるまい。新支那は如何にして建設の歴史的契機を獲得し、如何なる力の結合によつて建設途上を前進し始めたか——實にここにこそ新世紀の一切の課題が胚胎してゐるのだ。眞実克明をもつて知られた著者が、身を以てこの偉大なる歩武を経験しつづ、その一步一步を記録したのが本書である。ひとはここに始めて東亞の黎明を眞に仰ぐの感を深くするであらう。

定價 二圓八十錢(裝定)

購入

3109

32 N19

¥ 1.50





